

# 小洞谷第2号砂防堰堤工事における安全対策について

工事名 小洞谷第2号砂防堰堤工事

施工者 有限会社 和 仁 建 設

工 期 平成21年 4月17日

~ 平成21年12月30日

現場代理人・監理技術者 谷崎 雅博

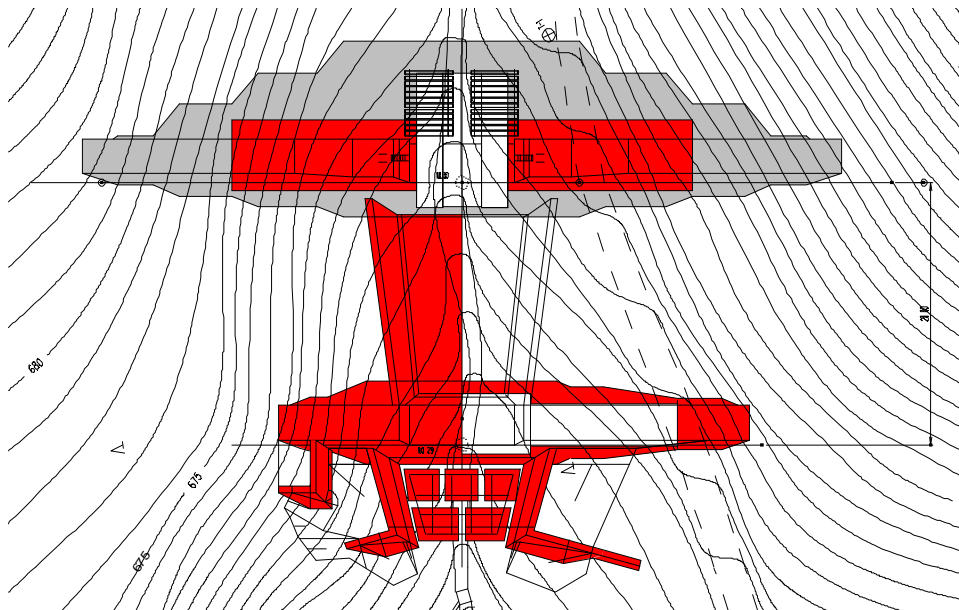


## 1. はじめに

当工事の施工箇所は、飛騨市神岡町寺林に位置し、その下流域で生活する人たちや国道41号線を利用する人の生命や財産を守るために砂防堰堤を作る事業です。

今年度の工事は、コンクリート堰堤本体工の嵩上げと側壁工右岸及び副堰堤(次期工事作業道施工部除く)、下流護岸工を施工する工事です。

## 2. 工事概要



### 【工事内容】

砂防土工		一式
コンクリート堰堤本体工	コンクリート	5 7 7 m <sup>3</sup>
	残存型枠	4 2 0 m <sup>2</sup>
コンクリート副堰堤工	コンクリート	7 4 9 m <sup>3</sup>
	残存型枠	4 2 0 m <sup>2</sup>
側 壁 工	コンクリート	1 1 7 m <sup>3</sup>
	残存型枠	1 9 0 m <sup>2</sup>
水 叩 工	コンクリート	5 7 m <sup>3</sup>
下流護岸工		一式
護 床 工		一式
仮 設 工		一式

### 3. 降雨に対する安全対策

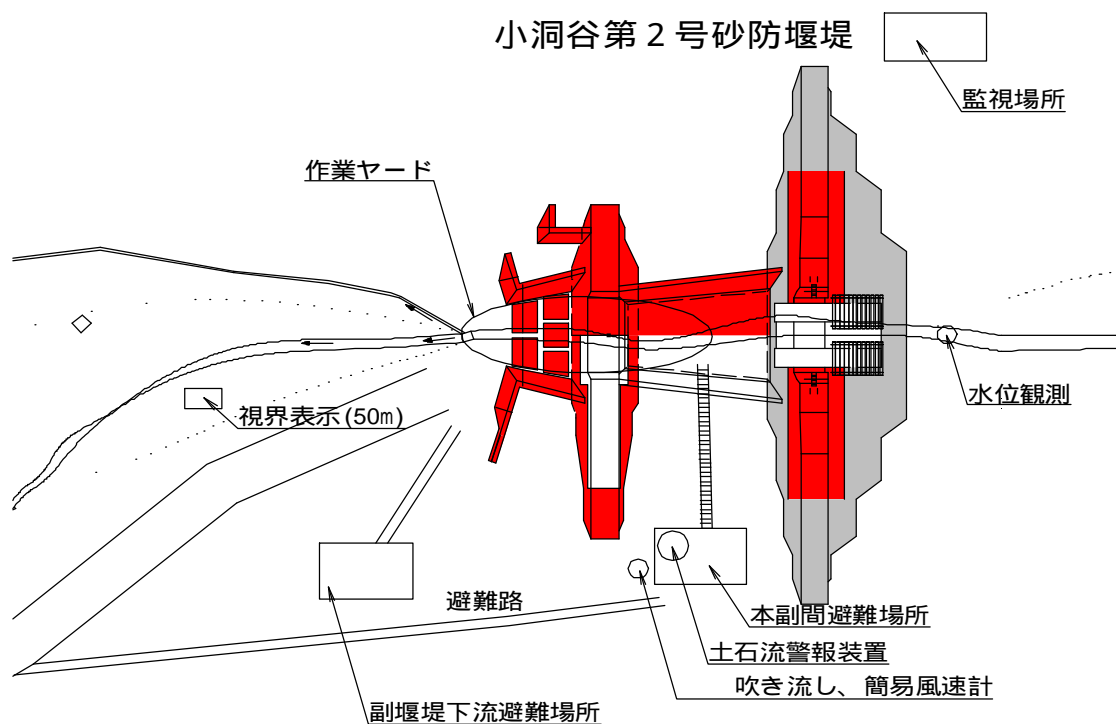
ここ近年の気象をみると異常気象傾向にあり、現場付近も集中的に降雨の激しい場所(切雲～漆山)があり降雨対策を第一に考えた。

避難場所を選定するにあたり、今年度の施工が本堰堤から下流護岸までの右岸側となり、左岸からは現場からの退避も容易なため避難場所を堰堤左岸側に設けた。

また、1箇所では場所によっては上流へ避難しなければならぬ事と、避難場所が遠く時間がかかる等の問題があり少しでも早く避難ができるよう副堰堤下流にも設け避難時間の短縮を図った。

避難訓練にて時間を計測した結果、土石流センサーが作動し土石流の到達時間(37秒)に対し避難時間は現場のどの位置で作業をしても25秒以下にて避難ができる結果となった。

小洞谷第2号砂防堰堤仮設図



本副間避難場所



副堰堤下流避難場所



#### 4 . 朝礼、危険予知活動

当現場において協力会社の入場があり、朝礼を合同(危険予知活動は、作業内容が違うため会社別)でおこなう事によって、工程を調整(特にコンクリート打設等資材搬入)し狭い作業ヤード内を有効に利用し現場の中で起こりうる重機及び作業員の接触事故等の防止を図った。

協力会社が入場する場合、現場への入場時間がどうしてもまばらになり、危険予知活動が別々におこなわなければならない事が多々ありますが、合同でおこなう事により作業がスムーズに進捗し、当現場のような作業ヤードの狭い現場においては作業ヤードを有効に利用でき、資材搬入時等のトラブルが防げる。

朝礼を合同でおこなった結果、次のような効果があった。

- \* お互いの当日の作業を把握できる。
- \* 狭い作業ヤードを有効に利用し、重機及び作業員の接触事故防止が図れた。
- \* 生コン打設の調整ができ、工程の進捗率が上がった。
- \* 他社の作業・危険予知活動等をみる事によって、自社のあり方を見つめ直せる。
- \* 作業員同士との意志の疎通ができ、作業がスムーズに行えた。
- \* お互いの不安全要素がわかり、意見を出し合う事で自分を見つめる事ができた。

#### 朝礼、危険予知活動





## 5. 現場における重機及びダンプトラックの事故防止について

現場において、重機及びダンプトラックのオペレーターに対し、現地乗り込み時現場運転免許講習をおこない、現場内免許を発行する事によりオペレータとの自覚を促しそれを持たない作業員(未受講者)には、運転を認めなかった。

その結果、オペレーターとしての自覚を今まで以上にもて、過積載及び重機の事故防止が図れた。

現場運転免許講習状況



現場運転免許証



現場運転免許証携帯状況



工事車両表示(裏面 運行経路)



## 6. おわりに

今後も、経験・慣れからくる日常的な作業ほど『事故・災害が起こるかもしれない』という安全意識を常に持ちながら、安全活動を継続し、無事故・無災害での施工を続けていきたいと思えます。

最後になりましたが、工事の施工中ご指導頂きました監督職員の皆様と工事関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。